

キーワード 生活科、小1プロブレム、スタートカリキュラム
学びの連続性、発達支援教育、生徒指導



- 保幼小の円滑な接続における生活科の果たす役割
- 誰一人取り残さない教育の実現を目指した学校経営の在り方

▶▶▶ 地域子ども教育学科 教授 笹原康夫

1 - 研究テーマ1 : 幼児教育と小学校教育の円滑な接続にむけて

・研究内容

幼児教育と小学校教育のギャップに戸惑う子どもたちがいます。期待に胸を膨らませて小学校に入学してきた子どもたちに、悲しい思いをさせてはいけません。こうした「小1プロブレム」は、現在の小学校教育が抱える大きな課題です。

子どもたちが、安心して小学校生活を送っていくためには、幼児期と小学校での学びが連続していることがポイントになります。そして、小1プロブレム解消に向けて「生活科」の果たす役割は大変大きいものがあるでしょう。

本研究室では、小学校に入学したすべての子どもたちが、安心して学習していくためのスタートカリキュラムの在り方を、近隣の幼稚園、小学校とも連携しながら実践を通して明らかにし、幼児教育と小学校教育の円滑な接続における「生活科」の果たす役割を探ります。



生活科の授業風景 幼児教育と
の学びの連続性を考えて

2 - 研究テーマ2 : 発達支援教育を根幹に据えた学校経営の推進

・研究内容

浜松市では、発達支援教育を学校経営の根幹に据えた取り組みを推進しています。

浜松市の考える発達支援教育とは、「確かな生徒理解に立ち、一人ひとりの子どもや保護者が教育上求めているものや必要なもの(教育的ニーズ)を的確に把握し、それに対し適切な支援をしていくことで、すべての子どもたちのすこやかな成長発達を支援する教育上の営み」のことです。これは、SDGs 目標4「質の高い教育をみんなに」に通じるものです。

本研究室では、近隣の小学校とも連携し、発達支援教育を根幹に置き、すべての子供たちが学ぶ喜びと人と関わることの安らぎを感じることができる学校経営を実現するためには何が必要なのかを探ります。



誰一人取り残さない教育を目指して
近隣小学校でワークショップを企画運営

